



卒後  
32年目

# 伊藤 睦子 医師

医療法人いとう眼科 理事長／  
茨城県医師会常任理事・男女共同参画委員会副委員長(2017年11月現在)

**開業を考え始めたのは30代。子育てよりも親の介護が大きな理由になりました。自分の時間をしっかり持って仕事をしたいと思ったのがきっかけです。手術をしたいという気持ちも強くありました。今後は、子育て同様、介護についても社会はもっと考えるべきだと思います。**

私は昭和60年に島根医科大学医学部を卒業し、その年の6月に東京医科歯科大学眼科へ入局しました。その頃には既に結婚も決まっていた。学生時代は外科を希望していましたが、当時の知り合いの院長の「これからは眼科だよ」という一言で眼科医の道に進むことを決めました。マイナーな科だったため当初は眼中になかったのですが、実際はとても専門性が高く、続けるうちに楽しみを覚えました。

平成10年に開業し、現在は大きく3つの仕事に携わっています。1つ目は眼科医としての仕事が当然大きく、院長として診療や手術に携わり、また経営を考える理事長としての立場もあります。職員たちと協力して日々過ごしています。眼科医は8人いて、女性の医師は私を入れて3人。時短で働いている方も含め、皆専門的なスペシャリティを持っています。だいたい一日に130人から160人の患者の診療を、2人から3人の態勢で行っています。白内障などの手術は一日だいたい5件、週にして20件、年間では約800件になります。

2つ目は医師会の仕事です。10年前、男女共同参画立ち上げの際から参加し、女性医師をサポートする医師会活動に取り組んでいます。

3つ目は、3年前、病院の移転の際に開設した保育園です。私自身、働きながら4人の子どもを育て、どんなに子育てが大変か、保育の必要性を身に染みて知っています。守谷市は待機児童も多く、社会貢献をしたいという気持ちも大きくありました。その他、学生の職場体験や実習の受け入れも、積極的に行っています。

私は初めから、開業をしようと思っていたわけではありません。いつの間にかこうなっていた気がしています。子育ても仕事も生き方も、様々な理念を持っていても、子どもをど

のタイミングで産むかなど、色んな要因でその理念が変わってしまうことがあります。目標すら変わってしまうこともあります。しかし、そんな時期があってもいいと思います。そういう考えでいられたから、続けてこられたのだと感じています。

私は専門医を取る前に、子どもを4人出産しました。とても大変な思いをしました。当時は保育が十分ではなく、ベビーシッターを雇っていました。医者同士でベビーシッターを紹介し合うなんてことが、当然の風潮でした。医者をつづけることすら諦めた時期もありましたが、教授に「できるだけやってみたら」と言われ、とりあえずやってみたら、今に続いています。手助けをしてくれる人は沢山います。同級生や教授、周りに味方をつけて、環境は自分で積極的に作るしかありません。子どもと一緒に成長しようという思いでやってきました。応援してくれる人がいると、なんとか頑張れるということが多々ありました。

辞めるつもりでいたのに、辞めないで続けたことがスタートでした。ベビーシッターや両親の助けがあり、家族の理解がありました。夜遅くに帰ると、待っていた子どもたちが、目を爛々とさせて喜んでくれました。色んな手立てを使ってきたから続けられたし、仕事も楽しかったです。

ロールモデルを持つことも大事ですが、自分の人生は自分でしか責任を持てません。結婚も出産も、人と同じには決してならないのです。自分に与えられたものをしっかり使い、これだけは譲れないというものを持っていることが大切です。出来ないときは出来ないでいい。雨が降れば、雨の日の生活しかできないのです。心配事は絶対出てくるけど、負けないで進んでいってほしいと願います。

## ワークライフストーリー

### Career

- 島根医科大学卒業
- 2年目 東京医科歯科大学医学部 眼科学教室入局 同 附属病院勤務 専門医取得
- 7年目 JAとりで総合医療センター 眼科
- 10年目 同 眼科科長 学位取得(医学博士)
- 15年目 開業
- 20年目 医師会役員・学校医等 地域活動
- 20~30年目までの間 保育園開園

### Life

- 1年目 結婚 第1子出産
- 2~10年目までの間 第2子出産 / 第3・4子(双子)出産
- 21~30年目までの間 母の介護

## ある日のスケジュール

- 7:00 起床・朝食・身支度
- 8:30 出勤
- 9:00 外来
- 13:15 保育園で園児と昼食
- 14:00 手術
- 19:00 医師会会議
- 22:00 帰宅 趣味のパッチワーク
- 24:00 就寝